

1. 現状と課題

泉南地域は大阪湾と和泉葛城山系に囲まれた約 330 平方キロメートル（府域の 17%）の地域で、5市3町で構成され、約57万人（府域の約6%）が暮らしています。

地域内に関西国際空港を擁し、空港との近接性や良好な交通アクセスなどを背景に、りんくうタウンなどには大規模な商業施設や物流関連施設などが集積しています。

また、ブナの原生林などの豊かな自然が残されており、熊野街道や紀州街道などの旧街道に沿って歴史的な街並みが保全されているほか、秋には各地でだんじりなどの祭りが開催され、多くの観光客が訪れます。

一方で、長い海岸線を有しており、近い将来に高い確率で発生するとされる南海トラフ地震の影響を受けやすい地域となっています。

このような認識の下、岸和田土木事務所では、以下の6つを泉南の地域づくりにおける主な課題として設定し、その解消に地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

✚ 課題1 自然災害への十分な備え

東日本大震災での大津波や西日本での豪雨災害をはじめ、これまでの想定を超える自然災害により甚大な被害が発生しました。

インフラがあらゆる自然災害に対して「人命と財産を守ることは難しい」という教訓を受けて、「逃げる・凌ぐ・防ぐ」の総合的な組み合わせが重要となっています。

まずは「人命を守る」ことを最優先に、「逃げる・凌ぐ」ことに重点を置いた柔軟な対応を進めること、また発災時には早急に機能復旧することが求められています。

✚ 課題2 インフラ施設の老朽化・大量更新時代到来への対応

高度経済成長期や関西国際空港の開港に合わせて、多くのインフラ施設の整備を進めてきましたが、とりわけ高度経済成長期に整備した橋梁等については今後一斉に老朽化が進み、近い将来に大量更新時代を迎えることとなります。

このため、限られた財源・人的資源の中、地域の社会経済活動を支えるインフラ施設の適切な維持管理・更新が課題となっています。

✚ 課題3 地域の将来に必要なインフラ施設の着実な整備

関西国際空港に関連して、空港連絡道路をはじめとするインフラの整備が国・府・地元市町の連携の下に急速に進められ、一定水準まで達しています。

しかしながら、道路ネットワークの未接続区間や通学路の歩道など必要性が高いにも関わらず、整備できていないインフラがあります。

このため、より良い泉南地域を早期に実現するため、必要なインフラの整備について、即効性・実現性の観点から選択と集中により重点的に進めることが必要です。

✚ 課題4 誰もが安全に安心して暮らせる地域づくり

65歳以上の人口比率が2040年に約4割に達する超高齢化社会が予測されています。また、障がい者が健常者と同様に自立した社会生活を営むことができるノーマライゼーション理念が一層浸透しています。このため、インフラのバリアフリー化をさらに進めることが求められています。

相次いだ集団登校中の児童らを巻き込む痛ましい事故が発生したことを踏まえ、特に通学路の交通安全対策の充実が求められています。

✚ 課題5 豊かな地域資源を活用した地域の活性化

泉南地域に残されている豊かな自然や歴史・文化は、地域の活性化に取り組む上で、経済的な利益をもたらすだけでなく、地域の誇りとして重要な要素です。

この豊かな地域資源を地元市・町や企業、地域住民の皆様などさまざまな主体と連携・協働しながら磨き上げることで、地域の魅力づくりを進めていくことが求められています。

✚ 課題6 連携と協働による地域づくり

上記5つの課題にしっかり取り組むことで良い泉南地域を実現するため、地元市・町をはじめとするさまざまな主体と地域づくりの課題や対応方針について議論を深めていく必要があります。

また、土木事務所はインフラの充実を通じて良い地域づくりに寄与することを至上命題としてきましたが、近年、少子高齢化やインフラの老朽化により、予算上の制約が非常に厳しい状況です。このため、より多くの府民の皆様や団体、企業などと協働して、地域を支えるインフラのマネジメントに携わっていくことが重要です。